

あるAMD Aが結ぶ構想である。

国際貢献NGOサミットを1984年から12回開催して岡山はローカルNGOの集積都市となった。2006年にAMD Aは国連から政策提言ができる総合協議資格団体と認定された。すなわち、「西のジュネーブ、東の岡山」構想のソフトインフラが整備されたと言いたい。

二つ目は「国際福祉都市推進条例：岡山市と倉敷市の連携」の制定。故三木行治県知事の百万都市構想は産業による岡山市と倉敷市の合併だった。この条例は福祉による岡山市と倉敷市の連携である。都市政策の基本は人口構成である。近い将来、岡山市と倉敷市の人口は県内の周辺地域からの流入により増加すると共に高齢化する。「都市の高齢化」である。

下記の五つの内容を考えて。より良き将来に向けて検討していただければ幸いである。

①車いすで共に生きる喜びの都市空間の創設。岡山駅を含んだ1.5平方と倉敷駅から美観地区を含む空間。福祉の可視化

医療と福祉の地・岡山

である。高齢化社会の世界都市モデルになる。世界でオンリーワンの都市。日本中や世界中から人が来る。医療と福祉が観光資源化する。世界保健機構、国連開発計画や国連人間居住計画と連携し、日本政策投資銀行、アジア開発銀行や世界銀行から資金調達できる。さらに、消費税導入が追い風となる。

教授などがいる。

⑤国際福祉都市構想の国際コンペの施行。世界の建築家や都市計画者から世界基準の「車いすで共に生きる喜びの都市空間」の智慧を集めるための懸賞コンペ。懸賞金は三千万円。百万円を提供する30人を審査委員とする。条例指定後に実施。懸賞コンペの募集広報自体が世界への国際福祉都市構想の発信となる。岡山再生30人の志士である。

最後に、「西のジュネーブ、東の岡山」構想と「国際福祉都市推進条例：岡山市と倉敷市の連携」構想に加えて、AMD Aが新たな新機軸として展開している「市民参加型人道支援外交」構想を「岡山ブランド」確立の3点セットとしてご理解いただければ幸いである。

④公文教授支援ファン（AMD Aグループ代表）の設立。岡山大学で世

7月9日。第108回関西地区経済同友会合同懇談会が「安心安全な社会の構築に向けて」医療集積の地・岡山から過去・現在・将来を見る」のテーマのシンポジウムをホテルグランヴィア岡山で開催した。公文裕巳岡山大学教授、大原謙一郎倉敷中央病院理事長、末光茂旭川狂理事長、私に続いて中島基善岡山経済同友会代表幹事の5人がプレゼンテーションを行った。いずれも岡山の精神風土である「弱者を見放さない」福祉の精神とミッションを基調にしていた。

私は「岡山ブランド」の確立のために二つのことを強調した。一つは「西のジュネーブ、東の岡山」構想である。世界の人道支援活動推進のために、「人権」を基本とした人道援助関連の国連機関と欧米の国際NGO（非政府組織）の集積都市であるジュネーブと、「相互扶助」を基本とした発展途上国のローカルの集積都市岡山を国連NGOで